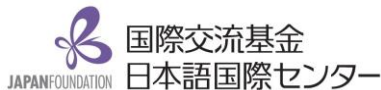


文法の教え方

Unit 2実践 Part 1 いろいろな文法提示



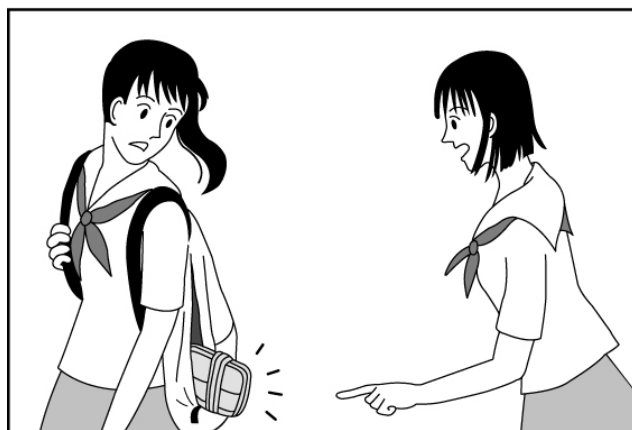
はじめに

文法指導において、言葉で説明する方法は一般的ですが、言葉での説明には限界があると言われていいます。では、文法提示の方法には他にどのようなものがあるのでしょうか。このパートでは、いろいろな文法提示の方法を紹介します。


1. 場面や状況を表す絵
2. 意味や概念を表す図
3. 学習者がルールを発見する方法

1. 場面や状況をあらわす絵

下の絵は、「～そうです」を提示したいときに使う絵です。一人の学生のリュックから財布が落ちそうになっている状況を表しています。



ここでは例としてこの絵を使って、「～そうです」を次のように提示してみます。

JAPAN FOUNDATION 

①状況や場面の確認

この二人は、
どんな人？

これは何？

指さしているの
はなぜ？

②話し手（後ろの人）の立場の確認

この人に、
教えてあげたいです。

なんといいますか？

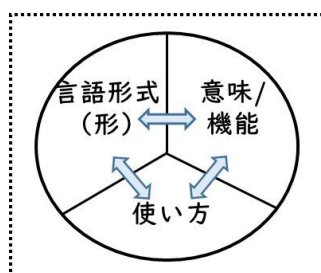
③文型の形の提示

財布が落ちそうですよ

4

- ① 絵を見せながら、状況・場面、絵の中のものを、母語を使ってもいいので学習者と一緒に確認します。
- ② 話し手、つまり後ろの人の立場を確認します。そして、この後ろにいる人は前にいる人に対して何をするのか、どんな風に言うか、学習者に聞きます。
- ③ 学習者がいろいろな答えを言うので、それをまとめながら最後に提示したい文型を言います。

上のように場面や状況を表す絵を使いながら、教師が学習者に質問することで提示できた内容を、「文法の3つの要素」を使って整理してみましょう。



【意味／機能】あることが起こりそうな状況を意味しています。ここでは財布がもうちょっとで落ちそうなので注意します。

【使い方】話し手と、注意を受ける人が知りあいであるかどうかに関係なく使えます。

【形】「落ちそうですよ」という形を提示します。

絵を使って文法を提示する際のポイントとしては、教師が一人で絵を説明するのではなく、学習者に質問しながら進めるといいでしょう。そうすると、学習者がどのくらい理解しているかわかります。また母語を使って授業をすすめてもいいですが、学習者が知っている日本語を使って質問すると、そのやりとり自体がコミュニケーションになります。

【タスク1】

授業で受身文^{うけみぶん}を提示するとき、次の絵をどのように使いますか。上で学んだ手順やポイントを活かしながら、考えてみてください。



【タスク 2】

あなたは文法を教えるときにどんな絵を使って文法を提示していますか。上で学んだ手順やポイントをいかしながら、その絵を使った文法提示の方法を考えてみてください。

2. 文法の意味や概念を表す図

文法の提示には、次のような意味や概念を表す図を使うこともあります。

2. 文法の意味や概念を表す図

JAPAN FOUNDATION 

例 | 「こ・そ」の領域 (=territory)

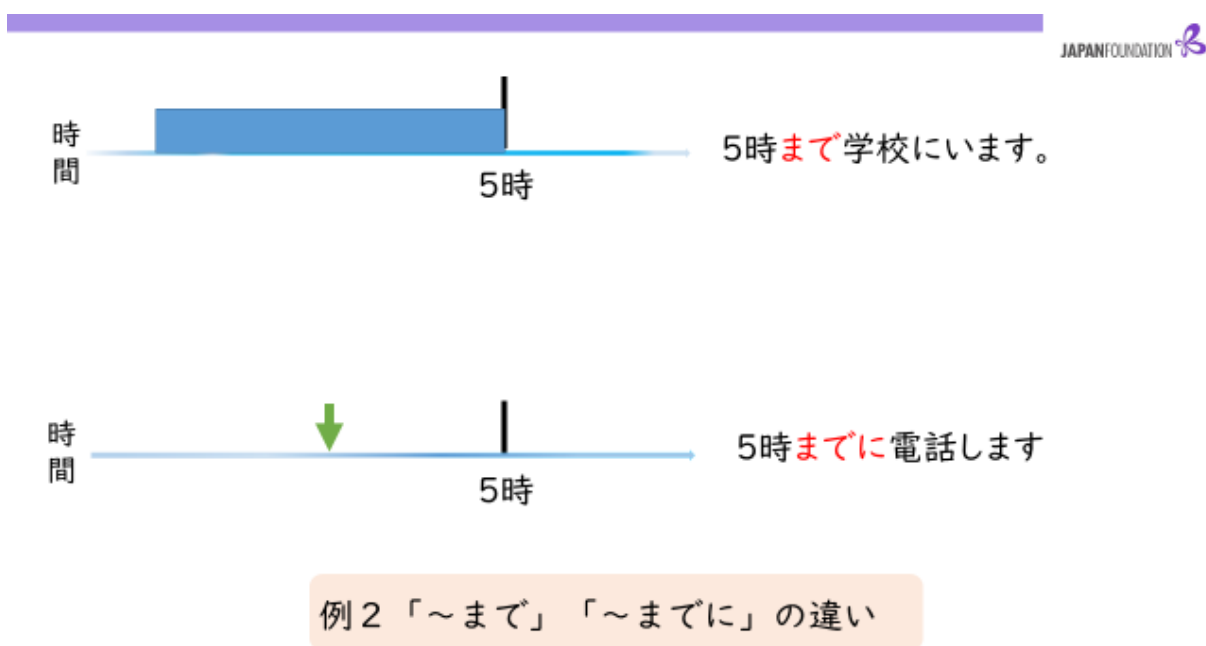
18

《状況》 Aさんは、新しいスマホを買いました。Bさんのスマホが、どんなスマホか気になっています。

この図は、「これ・それ」を提示するときを使う図ですが、人の下に円が書かれていることで、「これ・それ」の領域(=territory)が表されています。このように図を使うことで「これ・それ」の考え方が提示しやすくなっています。

他にも記号を使って文法の意味や概念を提示する例があります。

次の図を見てください。



これは「まで」と「までに」の違いを表している図です。

どちらの図も、時間の経過は青い→で表し、5時という期限を黒い縦棒で示しています。ですが「5時まで学校にいます」のほうは、ある期間ずっと「学校にいる」ことを青い太線を使って示している一方で、「5時までに電話します」のほうは「5時までに一度だけ電話する」ということを示すために、緑の矢印を一つ書いています。

【タスク 3】

あなたは文法を教えるときに、どんな図を使っていますか。どんなふうに説明していますか。下にその図を描いて、説明してください。

かんたんな図や、やじるし、円、線といった記号を組みわせるだけで、時間や空間の中の移動、さらには人との関係を表すことができ、文法の意味・概念を表すことができるので、学習者の理解は高まります。

自分で絵や図を描くのは難しい場合もあるので、何か教えた文法があるとき、市販の教材や参考書などを探してみましょう。また絵や図を使うときには、その絵や図が教えた文法の意味・機能や、使い方を表しているか注意してみましょう。

3. 学習者がルールを発見する方法

この方法の特徴としては、まず学習者が自分でルールを発見しようとするので、活動に積極的に参加します。また学習者にとって自分でルールを発見できるという喜びがあるため、それによって発見したルールは印象づけられ、記憶に残りやすくなります。

それでは、ここで「学習者がルールを発見する方法」を用いた活動例を紹介합니다。今回は活動例として、形容詞の提示の仕方をとりあげます。提示する内容は、次の2点です。

- 1) 形容詞には「い形容詞・な形容詞」の2種類があること
- 2) 「い形容詞・な形容詞」それぞれの特徴

学習者になった気持ちで以下の活動例を読んでください。

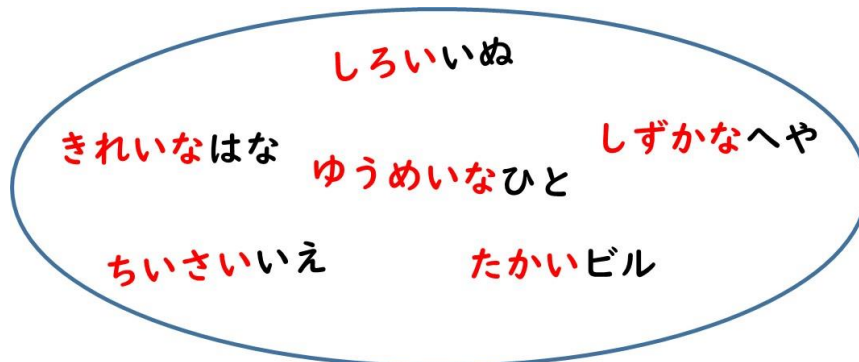
-----「学習者がルールを発見する方法」を用いた活動例-----

《準備:授業の目標》

T: 皆さん、こんにちは。今日は一緒に形容詞を勉強して、形容詞の種類や特徴を確認しましょう。

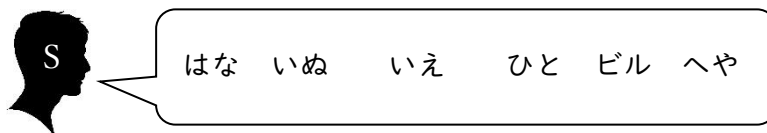
《1.形容詞と名詞の確認》

T: 下の円の中にはどんな言葉がありますか。読んでください。

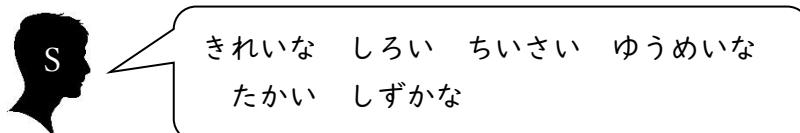


T: 色が分けられていますね。何色と何色ですか。そうですね。赤と黒ですね。

黒を読んでください。

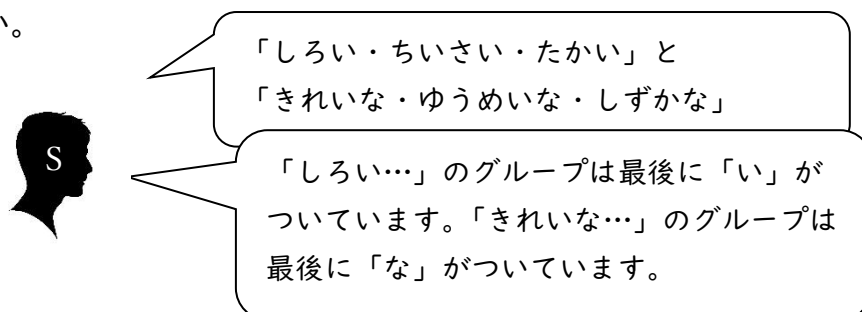


T: 黒は何を表していますか。そうですね、「名詞」ですね。次に赤を読んでください。



《2.形容詞を2つに分ける》

T: 赤はなんでしょうか。そうですね、「形容詞」です。この形容詞は2つのグループに分けられます。どのように分けられるでしょうか。わけてみて、どのように分けたか理由も説明してください。



T: そうですね。形容詞の最後に「い」がつく形容詞と「な」のつく形容詞がありますね。

《3.形容詞の否定形^{ひてい}の作り方》

T: それぞれの形容詞に「ない」をつけると、このようになります。一緒に読んでみましょう。

・しろい → ・しろくない	・きれいな → ・きれいじゃない
・ちいさい → ・ちいさくない	・ゆうめいな → ・ゆうめいじゃない
・たかい → ・たかくない	・しずかな → ・しずかじゃない

T: 次は自分で考えてください。下の言葉に「ない」をつけた形にしてください。

しんせつな →

あつい →

やすい →

べんりな →

《4. 「い形容詞・な形容詞」それぞれの特徴》

T: 「い」がつく形容詞、「な」がつく形容詞、それぞれ否定形にするときは、どんなルールがありますか。自分で考えて、発表してみましょう。



「い」がつく形容詞は…。「な」がつく形容詞は…。

T: 皆さん、発表してくれてありがとうございました。皆さんが発表してくれたように、「い」のつく形容詞は「い」をとって「くない」がつきます。「な」のつく形容詞は「な」をとって「じゃない」がつきます。

これで今日の授業は終わりです。今日は形容詞の種類や特徴、勉強しましたね。

今回の活動でどのようなことを行ったか振り返りましょう。

発見型の活動例

JAPAN FOUNDATION 

1) 準備：形容詞を2つのグループにわけ

文字の色がちがいますね！どうして？

形容詞を2つのグループに分けてみよう

2) グループごとに否定形の作り方を例示し、学習者も否定形を作ってみる

「しろい」の否定形は「しろくない」
それじゃあ「やすい」は？

3) 学習者の考えたルールを発表する

13

まず「文字の色が分けられていますね。何色と何色？」や「形容詞を2つのグループに分けてみましょう」といったように、最初に形容詞に注目させ、そこから2つのグループに分けました。次に形容詞の否定形の例をいくつか見せて、自分でも形容詞を否定形にしてみました。そして最後に、「この形容詞を否定形にするときは、どんなルールがありますか」などといって、学習者自身に形容詞の否定形の作り方のルールを発表してもらいました。

発見型の活動のポイントの一つ目としては、教師は最初にルールを教えず、学習者が発見しようとするとき、もし学習者が困っていたら、サポートすることです。最初からサポートせず、大変そうなどきだけ、助けるようにしましょう。また、学習者自身が「ルール」を自分で考え、説明できるようになることが大切です。

【タスク 4】

1)上の活動例で、学習者が発見したことはどんなことでしょうか。

2)上の活動例を読んで、この活動を成功^{せいこう}させるためにはどんなことが大切だと思えますか。

3)あなたのクラスでは、「学習者がルールを発見する方法」を取り入れてみたいと思えますか。それとも思いませんか。理由も教えてください。

4. まとめ

このパートでは、文法提示の方法について3種類^{しゅるい}、紹介しました。

- 1.《場面や状況を表す絵》絵を提示しながら母語や日本語で質問をして進めるといい。
- 2.《文法の意味や概念を表す図》矢印^{やじりし}や線などの記号を使って文法の意味や概念を提示できる。
- 3.《学習者がルールを発見する方法》授業を行う時には、教師は学習者が自分でルールに気付くことをサポートしたほうがいい。また、学習者が発見したルールを自分で説明できることが大切。

ぜひ学んだことを、自分の授業にあった方法にアレンジしてみてください。

■ このパートの参考文献^{さんこうぶんげん}と参考サイト

- ・ 国際交流基金(2010)『文法を教える』(国際交流基金 日本語教授法シリーズ 4)ひつじ書房
- ・ みんなの教材サイト <https://www.kyozai.jp.go.jp>

■ タスクの答え

【タスク 1】【タスク2】【タスク3】【タスク 4】（答えなし）